

留学体験記

3年1組22番 中辻 茜

1.留学に行くまで

・留学を志した理由

小さい頃から海外ドラマの影響で海外に興味を持っていました。中学生になって海外の高校に進学をしたいと思ったのですが海外進学には沢山のお金を必要とし実現が難しく他に方法がないか探してみました。すると高校交換留学というものに目がとまり、気付けばずっとそれについて調べていました。

アメリカに決めた理由は沢山の人種が住んでいる世界最大の多民主国家であり文化、信教、食文化、歴史も異なります。言語も異なり、知り合いも全くいない新しい環境で1からスタートすることになります。それは間違いなく自分が成長することができるチャンスであると思いました。アメリカに行って適応力、独立、多様な価値観の理解を学びたいと思ったので行くことを決めました。

・留学に行くために準備・努力したこと

アンバサダー交流会という先輩方による留学に役立つことや英語を学ぶことのできる講習がありました。ここでは留学で役立つ英語や、実際の体験談、アメリカの文化や行事などについて学びました。1番力が身に付いたのは10分ほどの英語のプレゼンです。月に1回、アメリカの州と日本の文化についてのプレゼンがありました。作るのは大変でしたが沢山練習してプレゼンの基本をそこで少しは身につけられたと思います。その他にもスラングを少し調べてみたりアメリカの歴史について調べたりもしました。

2.留学体験記

・留学中に学んだこと

1番学んだことは多様性についてです。沢山の人が周りの目を気にせずに“自分”でいたことです。メイクや髪の毛、ファッション、タトゥー、ピアスなどを体型や人種、ジェンダーを気にせずにみんな楽しんでいました。そして沢山の人が褒めてくれます。友達はもちろん先生や街ですれ違った人、スーパーのレジの人までも”I like ur~”や“where did u get it?”と声をかけてくれます。一方で起きたままの人、パジャマのままの人、毎日同じ服を着た人もいました。ですがそれに文句を言う人や陰口を言う人もいなく周りを気にする人もいませんでした。これは皆んなが他人に興味を持たないということでもあると思います。

もう一つは当たり前が当たり前が当たり前でないということです。留学生活は毎日が驚きでいっぱいでした。例えば飛行機の中でディスカッションを始める人、スーパーで知らない人と大喧嘩をしている場面や知らない人ととても仲良くなることや、毎週のようになる訓練なのか本当に起こっているのかわからないアラーム、アメリカの高校生全体でのTikTokチャレンジ、学校での盗難、生徒通しでの喧嘩で30台以上の警察がくる事件など数えきれないほどの驚きがたくさんの毎日でした。

そしてリアルなアメリカの生活を知ることができました。日本人の人の中にはアメリカの日常や高校生活はハイスクールミュージカルやアイカーリーみたいなものを想像するかもしれませんがそれらはあくまでドラマや映画であり実際とは異なります。

•アメリカの高校生活

日本とアメリカの高校生活は全く違い、真反対であると思いました。まずほとんどのアメリカの公立高校には制服はありません。そして見た目に関するルールもありません。生徒は授業を全て選ぶことができ、自分にあったレベルや先生のクラスをとることができます。ほとんどの子は自分の車や友達の家、またはスクールバスで登校します。ホームルームは一応ありますがクラスメイトはいません。授業の豊富さや大学の単位を取ることのできるクラスがアメリカにはあります。

そして授業の形も日本とは異なっていました。私の通っていた高校の授業は基本的に生徒が主体でどのクラスもディスカッションが突然始まったりグループワーク、プレゼンをする機会がとて多かったです。ある生徒達がバーガーチェーンの話を授業中に話していてその話に先生が介入し最終的にクラス全体でディスカッションになったり先生がポップコーンを持ってきて食べながら映画を見る日もあれば飲食禁止のシアターで友達がお菓子を連れてきて先生と一緒に食べたり、先生の誕生日に先生の自費のケーキでお祝いしたり日本ではあり得ないような授業内容も沢山ありました。他にも授業で使ったプリントを見ながら解いて良いテストやテスト中に音楽を聴いても良いと許可する先生やナッツ以外のもは基本的に授業中の飲食は自由であったり授業の邪魔にならないことであれば基本的に何をしても良かったです。

他にも沢山のユニークなことが毎日のように起こっていました。階段に投げ捨てられたままの大量のトランプや人参、りんご。ドラッグが駐車場に落ちていて外出禁止令、爆破予告のため学校休止、非公式のシニアスキップデー、沢山の先生が休むことになり突然のスクールオフ、スプリットデー、パジャマデー、TikTokチャレンジ、便器の中にゴミをあふれるほど入れられた光景全てが新鮮で毎日が楽しかったです。

•留学中に思い出に残ったこと

アメリカにいる間に友達とのお泊まりや誕生日会、バースデーウィーク学校生活、シカゴやニューヨーク、マディソン、ワシントンD.C.、スキークラブやソーシャルクラブ、学校行事やパーティー、年間行事などたくさんの思い出があります。

その中でもホストファミリーや友達との旅行、ニューヨークでのフェアウェルパーティーはとても思い出深いものです。

ホストファミリーとはサンクスギビング前にはウィスコンシンデルズに、ブラックフライデーにはアメリカで1番大きいモールオブアメリカというショッピングセンターに、冬休みにはシカゴへ、春休みにはワシントンD.C.やピッツバーグへ、帰国前にはミシガン湖にある車のない島、マカニックアイランドへ旅行しました。春休みの旅行はウィスコンシンからワシントンD.C.までのロードトリップでした。ウィ

スコンシンからワシントンD.C.までは8片道16時間にも及ぶ人生で1番長いロードトリップでした。その間に8州を通過したくさんのところを訪れました。ニュースでしか見たことのないアメリカの首都の建物やホワイトハウスを見たときはとても感動しました。他にもピッツバーグの有名な教会へ行ったり、スミソニア博物館でレオナルド・ダ・ヴィンチの絵を見たり貴重な経験をたくさんしました。たまたま入ったインド料理屋のマンゴーラッシーは世界一でロードトリップの良さを感じました。

帰国前に行った友達との旅行もとても楽しかったです。学校の最終日から帰国までほとんど毎日友達は私と遊んでくれました。18℃の中、外のプールで普通に遊んでいる友達にはとてもおどろきました。ウィスコンシン滞在最後日のフェアウェルパーティーでは夜までずっと一緒に遊び、夜にはパッキングを手伝ってくれて閉店間際のお店に新しいスーツケースを一緒に買いに行ったのも思い出です。最後のニューヨークでのフェアウェルデイズでは1年間アメリカで交換留学を終えた世界中の派遣生が集合し1年についての振り返りやパーティー、ニューヨーク観光をしました。そこで今でも連絡を取り合っている友達にも出会いました。タイムズスクエアに行った時はとても感動しました。今まで画面越しにしか見たことのない景色が目の前に広がりました。正直今でもそこにいたと信じられないくらいです。タイムズスクエアの景色、ニューヨークのクレイジーな人や、麻薬の匂い、黄色いタクシーや排水管の匂いまでも今も鮮明に覚えています。

・留学中に気付いた日本の良いところ

アメリカで1年過ごしていると日本の良さにも沢山気付きました。日本は安くて質が良いものが沢山あります。アメリカで5ドルするものよりも日本で100円ですませるものの方が質が良いことが沢山あります。安くて良いものという概念は基本的にアメリカではありませんでした。安いものには安い理由があるという考えだと知りました。日本にはコンビニがどこにでもあります。それに対しアメリカの田舎や小さな町では基本的にコンビニやスーパーに行くのにも時間がかかります。それに日本は電車で簡単に移動することができます。ですがアメリカではどこかへ行くのには基本的に車移動です。運転免許証を持っていない私からすると、どこへ行くのにも誰かに運転してもらわないといけません。そして日本の治安はとても良く公園で大人なしで遊んでいる子どももよく見ますがアメリカでは大人なしで遊ぶ小さい子は見たことがありません。そして何よりも日本食はとても美味しいということに改めて気付きました。健康的なのに美味しい日本食はアメリカではもちろん世界で大人気です。日本食と離れることによって日本食のヘルシーさとおいしさを知ることができました。そして沢山の人が日本を好きでいてくれることに幸せでした。アニメや漫画、日本食、日本語Tシャツなども沢山あり日本文化が好き人が多いことも知って日本を誇りに思うことが沢山ありました。実際に日本人と言うととても優しく接してくれたり、日本のアニメが大好きと教えてくれたり、日本にとっても行きたいと行ってくれたりもしました。

・留学中に苦労したこと、努力したこと

授業についていくのがとても大変でした。特に専門知識の多い授業やイングリッシュの授業やアメリカンヒストリーの授業は初めましての単語が多く私にとっては授業ペースが多いものが沢山ありました。特にイングリッシュの授業では授業時間内に物語を読みそれについてディスカッションするという授業もありました。私はいつも時間が足りなく、仮に間に合ったとしてもディスカッションを聞くので誠意一杯でなかなか沢山の人がいる中での話し合いで発言することは難しかったです。もう一つは他の留学生と比べてしまい気持ちが落ち込んでしまうことが沢山ありました。特にSNSにはみんながキラキラ留學生活の投稿などをしていてそれと比べてしまうことが沢山ありました。自分でも見ない方がいいと分かっているのに何故かつい見えてしまいました。自分と他人を比べないことを努力することはとても大変でした。

3. 留學を終えて

・帰国して、自分が成長したと感ずること

この1年で物事の考え方や価値観が変わったと思います。世界では今まで私の中にあった当たり前が当たり前でなくなりもっと沢山の考え方や文化があるのだと気付くことができました。日本にいるときはあまり気にもしていなかったraceについてもっと認識するようにもなりました。そして1番学べたことはもっと自分に自信を持つても良いと言うことです。正しい間違いなど関係なく自分の意見を持ち、それを伝えることの大事さを学びました。留學で得た貴重な財産を将来インターナショナルな環境で働くときに役立てるようこれからも新しいことをどんどん学び続けたいです。